

**抗がん剤の副作用とその軽減方法  
に関する大規模患者調査  
結果報告書**

**平成25年3月29日**

**株式会社QLife(キューライフ)**

## 調査の背景

がんの治療において、抗がん剤治療(化学療法)は手術や放射線治療と並んで主要な治療法の1つである。しかし、その副作用に悩む患者は多く、各製薬メーカーとも、抗がん剤の開発とともに、その副作用の軽減に注力している。そこで今回、独立行政法人国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長 上園 保仁先生ご監修のもと、がん患者を対象に抗がん剤治療ならびにその副作用の軽減策の実態を調査した。

## 主な結論

抗がん剤の副作用で悩んだ経験のある人は92.3%もいるが、抗がん剤の副作用を軽減するための薬を処方されていたのは54.0%にすぎず、特に「倦怠感・疲れ」や「食欲不振」は、辛いと感じる患者さんが多いにもかかわらず半数にも満たない。また、抗がん剤の効果には期待しつつ、副作用の軽減を求める人が66.1%にもおよんでいる。抗がん剤の副作用に対する患者意識は高く、緩和ケアのより一層の浸透がのぞまれる。

## 結論の概要

### 1) 約9割の抗がん剤治療経験者が副作用を経験。日常生活への影響も大きい

抗がん剤治療経験者の88.1%が、平均3.5つの副作用を経験している。そのうち、31.5%の患者が「吐気・嘔吐」を最も辛い副作用と回答。92.3%が副作用による「日常生活に何らかの影響」を感じており、「これまでに経験した一番の辛さ/悩み」と回答した患者も16.5%にのぼっている。

### 2) 約3人に1人が「副作用の辛さ」を理由に医師に相談を行っている。その他の相談相手としては看護師やホームページ参照など

抗がん剤治療経験者の36.9%が副作用の辛さを理由に抗がん剤の使用を止めたいと考えたことがあると回答。そのほとんどが、主治医に対して副作用軽減の相談を行っている。また、主治医以外の相談対象として、看護師ならびに、病気に関する情報が掲載されたホームページを調べている。

### 3) 約半数が副作用軽減を目的に薬を処方されている

54.0%が副作用軽減のために薬を処方されている答。最も辛い症状別では、「手足のしびれ」「痛み」「吐気・嘔吐」といった症状で多く、逆に「倦怠感・疲れ」や「食欲不振」では、辛いと感じる患者が多いながらも、処方に至っている例は半数に満たない。

### 4) 副作用軽減のための薬を処方された患者の半数以上が軽減を実感。漢方薬についても西洋薬と同等の効果を実感している

抗がん剤の副作用軽減における漢方薬の効果実感について、漢方薬を服用した結果、その61.2%が副作用が軽減されたと回答。漢方薬と西洋薬の作用比較でもほぼ同じ割合の回答となっている。

### 5) 抗がん剤に期待することは「更なる副作用が無いこと」「すぐに効くこと」

抗がん剤に期待することは「更なる副作用が無いこと」「すぐに効くこと」がそれぞれ過半数に。また、約半数の患者が効果の継続とともに、日常生活に影響の出ない範囲で副作用の軽減をしてほしいと回答。

抗がん剤の副作用とその軽減方法  
に関する大規模患者調査

## 【調査実施概要】

### ▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

### ▼実施概要

- (1) 調査対象: 医療機関によって「がん」と診断され、かつ医療機関受診経験のある患者
- (2) 有効回収数: 2249人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2013/2/22~2013/3/3

### ▼有効回答者の属性

(1) 性・年代:

	男性	女性	計
20代	3	7	10
30代	38	91	129
40代	155	321	476
50代	323	339	662
60代	473	156	629
70代	288	39	327
80代	14	2	16
計	1294	955	2249

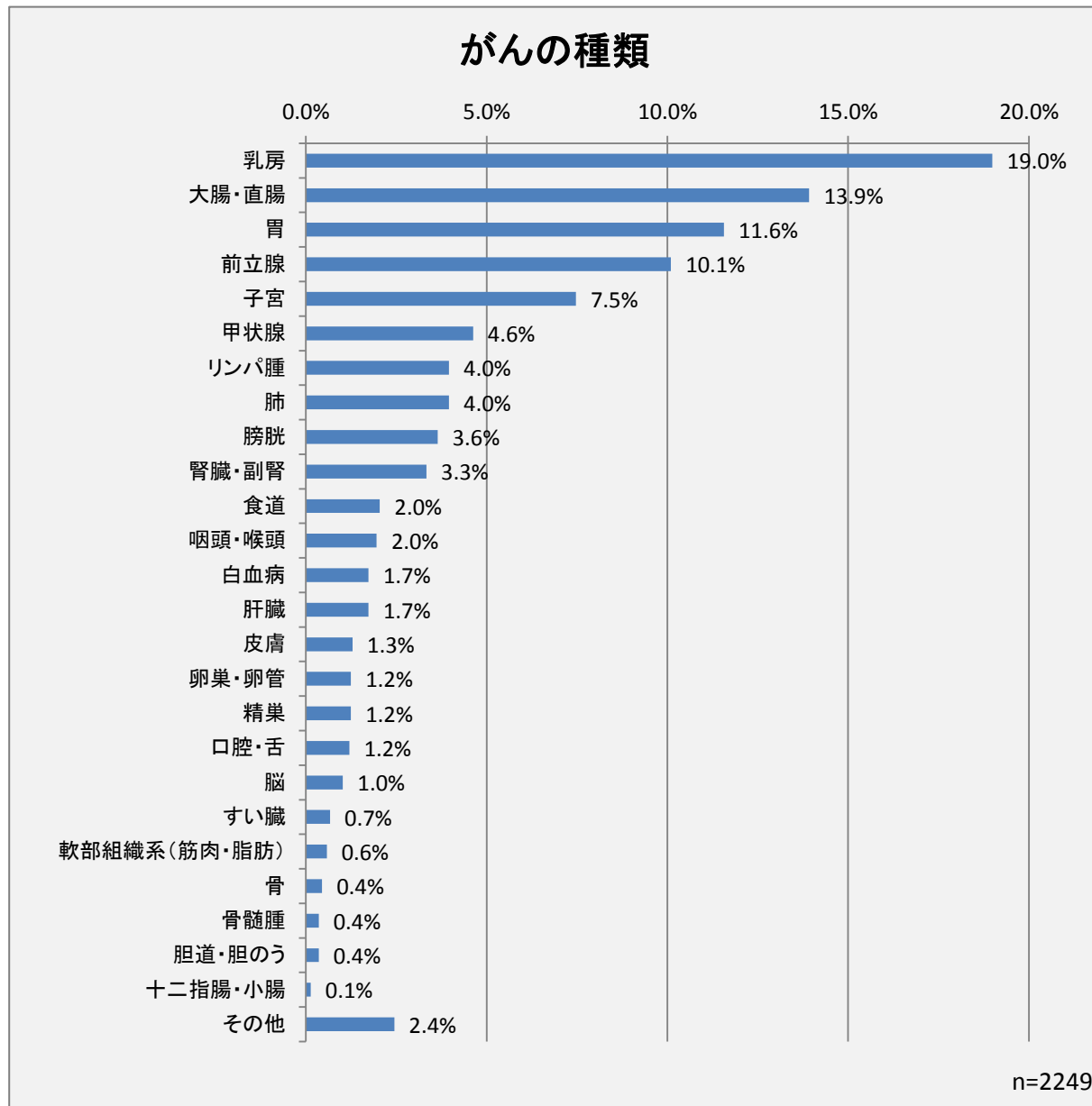
	男性	女性	計
20代	0.2%	0.7%	0.4%
30代	2.9%	9.5%	5.7%
40代	12.0%	33.6%	21.2%
50代	25.0%	35.5%	29.4%
60代	36.6%	16.3%	28.0%
70代	22.3%	4.1%	14.5%
80代	1.1%	0.2%	0.7%
計	100.0%	100.0%	100.0%

【Q1】最初にがんが診断された時、何のがんと診断されましたか。当てはまるものを選んでください。  
 ※転移ではなく多重がんで年月を経てから新たな部位にがんが見つかった場合は、最初の部位ではなく最近の部位を選んでください。

n=2249

	n	%
乳房	427	19.0%
大腸・直腸	313	13.9%
胃	260	11.6%
前立腺	227	10.1%
子宮	168	7.5%
甲状腺	104	4.6%
リンパ腫	89	4.0%
肺	89	4.0%
膀胱	82	3.6%
腎臓・副腎	75	3.3%
食道	46	2.0%
咽頭・喉頭	44	2.0%
白血病	39	1.7%
肝臓	39	1.7%
皮膚	29	1.3%
卵巣・卵管	28	1.2%
精巣	28	1.2%
口腔・舌	27	1.2%
脳	23	1.0%
すい臓	15	0.7%
軟部組織系(筋肉・脂肪)	13	0.6%
骨	10	0.4%
骨髄腫	8	0.4%
胆道・胆のう	8	0.4%
十二指腸・小腸	3	0.1%
その他	55	2.4%
総計	2249	100.0%

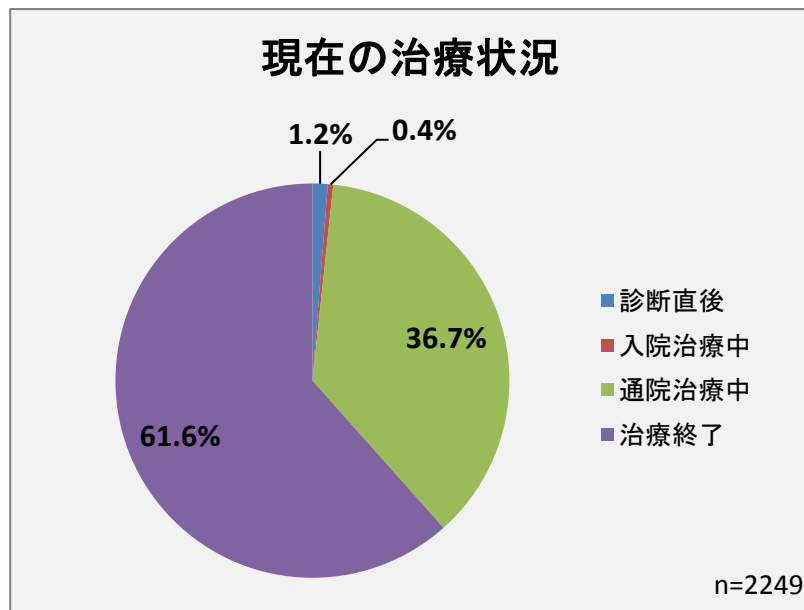
【Q1】最初にがんと診断された時、何のがんと診断されましたか。当てはまるものを選んでください。  
 ※転移ではなく多重がんで年月を経てから新たな部位にがんが見つかった場合は、最初の部位ではなく最近の部位を選んでください。



【Q2】現在の治療状況として、一番近いものを教えてください。

n=2249

	n	%
診断直後	28	1.2%
入院治療中	10	0.4%
通院治療中	826	36.7%
治療終了	1385	61.6%
総計	2249	100.0%

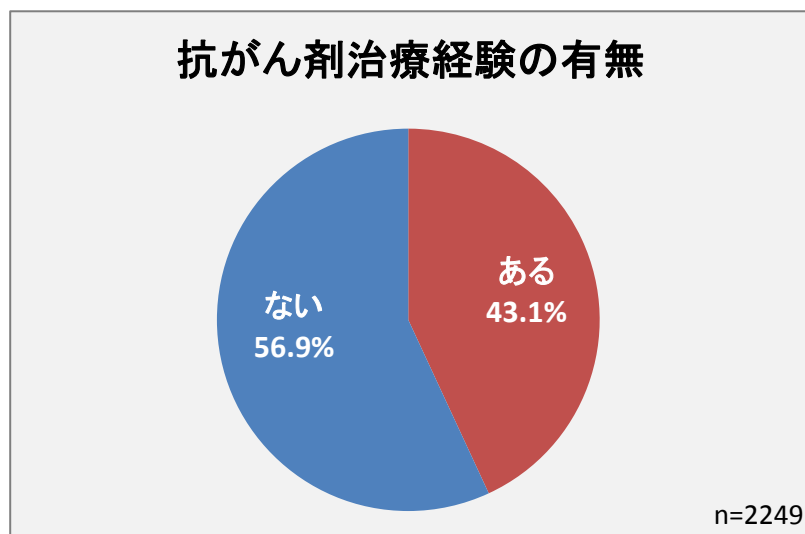


### 【Q3】抗がん剤治療を受けたことがありますか。

抗がん剤治療の経験を受けたことが「ある」と回答したのは全体の43.1%。がんの種類別にみると、最も高かったのが「卵巣・卵管」で92.9%。最も低かったのが「甲状腺」で4.8%であった。

n=2249

	n	%
ある	969	43.1%
ない	1280	56.9%
総計	2249	100.0%



	乳房	大腸・直腸	胃	前立腺	子宮	甲状腺	肺	リンパ腫	膀胱	腎臓・副腎	食道	咽頭・喉頭	肝臓
ある	246	143	83	42	34	5	43	78	38	24	27	32	12
ない	181	170	177	185	134	99	46	11	44	51	19	12	27
総数	427	313	260	227	168	104	89	89	82	75	46	44	39

	白血病	皮膚	精巣	卵巣・卵管	口腔・舌	脳	すい臓	軟部組織系(筋肉・脂肪)	骨	骨髄腫	胆道・胆のう	十二指腸・小腸	その他
ある	35	8	14	26	16	13	9	5	5	7	4	2	18
ない	4	21	14	2	11	10	6	8	5	1	4	1	37
総数	39	29	28	28	27	23	15	13	10	8	8	3	55

	乳房	大腸・直腸	胃	前立腺	子宮	甲状腺	肺	リンパ腫	膀胱	腎臓・副腎	食道	咽頭・喉頭	肝臓
ある	57.6%	45.7%	31.9%	18.5%	20.2%	4.8%	48.3%	87.6%	46.3%	32.0%	58.7%	72.7%	30.8%
ない	42.4%	54.3%	68.1%	81.5%	79.8%	95.2%	51.7%	12.4%	53.7%	68.0%	41.3%	27.3%	69.2%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	白血病	皮膚	精巣	卵巣・卵管	口腔・舌	脳	すい臓	軟部組織系(筋肉・脂肪)	骨	骨髄腫	胆道・胆のう	十二指腸・小腸	その他
ある	89.7%	27.6%	50.0%	92.9%	59.3%	56.5%	60.0%	38.5%	50.0%	87.5%	50.0%	66.7%	32.7%
ない	10.3%	72.4%	50.0%	7.1%	40.7%	43.5%	40.0%	61.5%	50.0%	12.5%	50.0%	33.3%	67.3%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



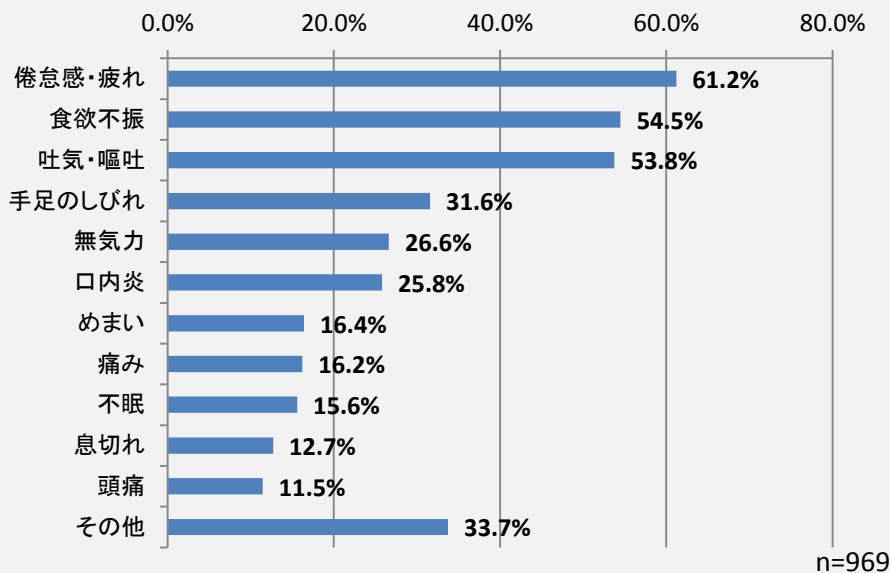
**【Q4】(Q3で、「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答した人のみ)  
抗がん剤治療では、どんな副作用がありましたか。(複数回答可)**

抗がん剤治療経験者のうち、抗がん剤の使用で「何らかの副作用があった」と回答したのが全体の88.1%にのぼった。平均で3.5種類の副作用があった、と回答。過半数が「倦怠感・疲れ」「食欲不振」「吐気・嘔吐」のいずれかの副作用を経験している。5大がん(乳房、大腸・直腸、胃、肺、肝臓 以下同)に関しても同様の傾向が見られるが、特筆すべき点としては乳房では「手足のしびれ」と「口内炎」が、大腸・直腸では「手足のしびれ」がいずれも40%を超えている。その他の副作用として多く見られたのが「脱毛」(回答数109)や「味覚障害」(回答数39)、「便秘」(回答数26)、「下痢」(回答数21)だった。

n=969

	n	%
倦怠感・疲れ	593	61.2%
食欲不振	528	54.5%
吐気・嘔吐	521	53.8%
手足のしびれ	306	31.6%
無気力	258	26.6%
口内炎	250	25.8%
めまい	159	16.4%
痛み	157	16.2%
不眠	151	15.6%
息切れ	123	12.7%
頭痛	111	11.5%
その他	327	33.7%
総数	854	359.5%
副作用はなかった(排他)	115	11.9%
総数	969	

### 抗がん剤の副作用(複数回答)



【Q4】(Q3で、「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答した人のみ)  
 抗がん剤治療では、どんな副作用がありましたか。(複数回答可)

n=527

五大がん	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
倦怠感・疲れ	172	82	44	23	10	331
食欲不振	135	71	42	26	7	281
吐気・嘔吐	143	67	43	25	6	284
手足のしびれ	106	56	10	10	1	183
無気力	71	39	20	10	3	143
口内炎	93	31	16	10	1	151
めまい	50	20	13	5	2	90
痛み	52	21	7	3	2	85
不眠	43	23	8	7	0	81
息切れ	41	18	6	8	2	75
頭痛	37	11	4	7	0	59
その他	98	38	25	17	1	179
総数	228	120	71	40	11	470
副作用はなかった(排他)	18	23	12	3	1	57
総数	246	143	83	43	12	527

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	%
倦怠感・疲れ	75.4%	68.3%	62.0%	57.5%	90.9%	70.4%
食欲不振	59.2%	59.2%	59.2%	65.0%	63.6%	59.8%
吐気・嘔吐	62.7%	55.8%	60.6%	62.5%	54.5%	60.4%
手足のしびれ	46.5%	46.7%	14.1%	25.0%	9.1%	38.9%
無気力	31.1%	32.5%	28.2%	25.0%	27.3%	30.4%
口内炎	40.8%	25.8%	22.5%	25.0%	9.1%	32.1%
めまい	21.9%	16.7%	18.3%	12.5%	18.2%	19.1%
痛み	22.8%	17.5%	9.9%	7.5%	18.2%	18.1%
不眠	18.9%	19.2%	11.3%	17.5%	0.0%	17.2%
息切れ	18.0%	15.0%	8.5%	20.0%	18.2%	16.0%
頭痛	16.2%	9.2%	5.6%	17.5%	0.0%	12.6%
その他	43.0%	31.7%	35.2%	42.5%	9.1%	38.1%
総数	456.6%	397.5%	335.2%	377.5%	318.2%	413.2%
副作用はなかった(排他)	7.3%	16.1%	14.5%	7.0%	8.3%	10.8%
総数						

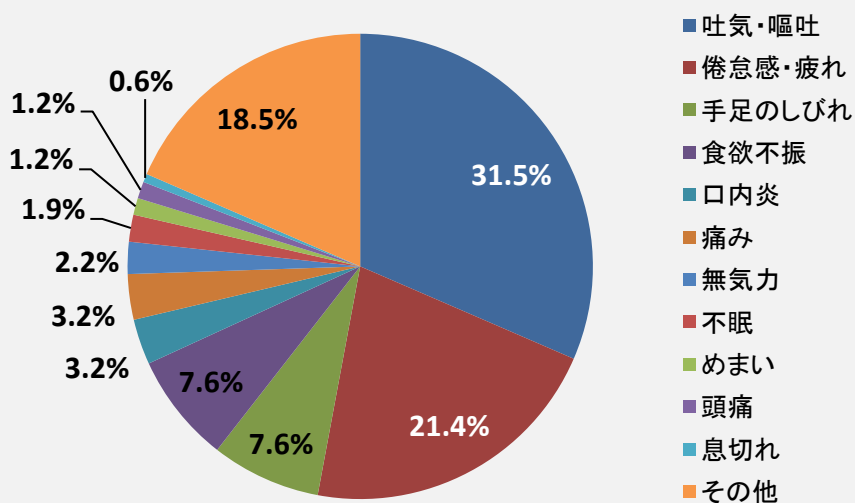
【Q5】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ) 副作用のなかで、最も辛いと感じたものはどれでしたか。

最も辛い副作用については、「吐気・嘔吐」が最も多く31.5%、次いで「倦怠感・疲れ」の21.4%となった。5大がんでは、乳房、肺、胃では「吐気・嘔吐」が最も辛いと回答した割合が多く、大腸・直腸、肝臓では「倦怠感・疲れ」が最も辛いと回答した割合が多かった。

n=854

	n	%
吐気・嘔吐	269	31.5%
倦怠感・疲れ	183	21.4%
手足のしびれ	65	7.6%
食欲不振	65	7.6%
口内炎	27	3.2%
痛み	27	3.2%
無気力	19	2.2%
不眠	16	1.9%
めまい	10	1.2%
頭痛	10	1.2%
息切れ	5	0.6%
その他	158	18.5%
総計	854	100.0%

### 最も辛いと感じた副作用



n=854

【Q5】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ) 副作用のなかで、最も辛いと感じたものはどれでしたか。

n=470

五大がん	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
吐気・嘔吐	67	26	22	10	2	127
倦怠感・疲れ	54	27	18	6	6	111
手足のしびれ	23	20	1	1	0	45
食欲不振	8	9	9	5	1	32
口内炎	9	2	4	2	0	17
痛み	6	1	1	2	1	11
無気力	3	5	3	1	0	12
不眠	3	3	1	1	0	8
めまい	4	2	2	0	0	8
頭痛	1	1	1	0	0	3
息切れ	3	0	0	0	0	3
その他	47	24	9	12	1	93
総計	228	120	71	40	11	470

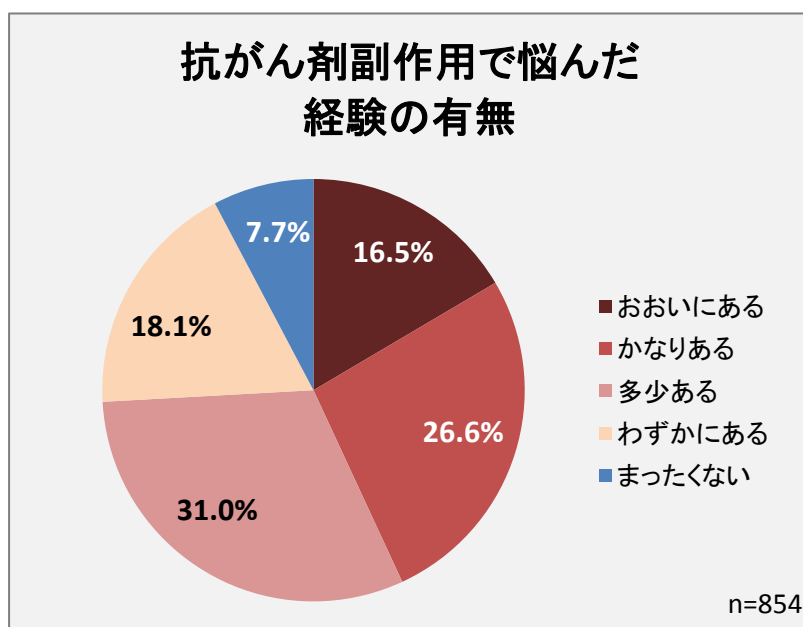
	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	%
吐気・嘔吐	29.4%	21.7%	31.0%	25.0%	18.2%	27.0%
倦怠感・疲れ	23.7%	22.5%	25.4%	15.0%	54.5%	23.6%
手足のしびれ	10.1%	16.7%	1.4%	2.5%	0.0%	9.6%
食欲不振	3.5%	7.5%	12.7%	12.5%	9.1%	6.8%
口内炎	3.9%	1.7%	5.6%	5.0%	0.0%	3.6%
痛み	2.6%	0.8%	1.4%	5.0%	9.1%	2.3%
無気力	1.3%	4.2%	4.2%	2.5%	0.0%	2.6%
不眠	1.3%	2.5%	1.4%	2.5%	0.0%	1.7%
めまい	1.8%	1.7%	2.8%	0.0%	0.0%	1.7%
頭痛	0.4%	0.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.6%
息切れ	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
その他	20.6%	20.0%	12.7%	30.0%	9.1%	19.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【Q6】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ) 抗がん剤の副作用について、普段の生活に影響が出るなど、悩んだ経験はありますか。

42.2%が抗がん剤の副作用が原因で普段の生活に影響が「おおいにある」「かなりある」と回答した。また、「多少ある」「わずかにある」も含めて、何らかの影響が「ある」との回答は92.3%になった。

n=854

	n	%
おおいにある(これまでに経験した一番の辛さ/悩み)	141	16.5%
かなりある	227	26.6%
多少ある	265	31.0%
わずかにある	155	18.1%
まったくない	66	7.7%
総計	854	100.0%



n=470

五大がん	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
おおいにある(これまでに経験した一番の辛さ/悩み)	43	18	11	6	1	79
かなりある	66	31	24	12	2	135
多少ある	67	39	21	9	5	141
わずかにある	44	25	9	8	2	88
まったくない	8	7	6	5	1	27
総計	228	120	71	40	11	470

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
おおいにある(これまでに経験した一番の辛さ/悩み)	18.9%	15.0%	15.5%	15.0%	9.1%	16.8%
かなりある	28.9%	25.8%	33.8%	30.0%	18.2%	28.7%
多少ある	29.4%	32.5%	29.6%	22.5%	45.5%	30.0%
わずかにある	19.3%	20.8%	12.7%	20.0%	18.2%	18.7%
まったくない	3.5%	5.8%	8.5%	12.5%	9.1%	5.7%
総計	228	120	71	40	11	470

【Q7】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ) 一番辛い日常生活への影響について、その具体的な内容を、副作用の種類とともに詳細にお教えてください。

日常生活への影響は多岐にわたっている。以下に自由回答の一部を紹介する。

- 抗がん剤投与後3日間ぐらいは何も食べなくても吐きっぱなしで、食べてないから胃液と胆汁ばかり吐いていた。胃液のせいで喉がガラガラになった。強い吐き気のため、胃が引っ張られているようで痛かった。(大腸・直腸 女性40代)
- 四六時中吐き気があり、食べ物の臭いでも気持ち悪くなったりして食欲が無くなった。(リンパ腫 男性50代)
- 脱毛で、頭髮がなくなり、ウィッグ生活だったが、もみあげもなくなり、風が強いと、髪がなびいてもみあげがないからウィッグとの境目がわかりやすくて、すれ違う他人にウィッグだとばれるんじゃないかとビクビクする。眉毛もなく、メイクで書いていたが、不自然になってしまい、出かけるのも精神的に疲れる時があった。えりあしが浮いていたり、ばればれのウィッグを被っている人を待合室で見かけては、私も同じく思われてはいないかと心配でたまらなかった。(子宮 女性30代)
- 投与後何日かはだるさが消えず、家事をスムーズにこなすのが困難だった。子供が小さかったため一日寝ているわけにもいかず辛かったこともある。味覚障害も出ていたので料理の味見をしてもわからず、感覚で味をつけていたり、レトルトや総菜のように味の決まったものを結構買っていた。(乳房 女性50代)
- 前半と後半では同じ症状ではないが、くちのなかのほとんどに口内炎ができ、唇に何が触れてもべろりと皮がむけ出血する為、何も口に入れる事ができなくなり点滴だけになった。(食道 女性60代)
- 抗がん剤投与直後から2,3日食欲不振になる 塩味が分からなくなった 車に1,2時間くらい乗ったあと貧血になった。100m歩くとふらついた。足の指のしびれ。走ると息切れがした。(乳房 女性50代)
- 抗がん剤投与初期は嘔吐・下痢が酷く、食事の匂いもNGで一週間にうどん数本しか食べれず、体重が92kgから60kgまで落ちた。(胃 男性70代)
- 朝起きる事も出来ず1日中、布団から出る事も出来ないくらい倦怠感に襲われた。(子宮 女性40代)
- 週末の2泊3日で点滴治療をしていたため、入院中は吐き気がひどくほとんど食事はとれなかったが、退院すると普通に食事ができた。日常生活では、指先のしびれがひどく、パソコンを打つ時も手袋がはずせなかった。(大腸・直腸 男性40代)
- 倦怠感がひどく、何をするのもおっくう。食事吐き気で取れなかった。便秘も酷いので、薬を貰って飲んでしたが、それでも改善されず、つらかった。(乳房 女性50代)
- 投薬後の1週間は吐き気と倦怠感の為、ほとんど寝たきり状態で、食事1日に桃の缶詰の桃1個とバナナ半分、無塩のトマトジュースを1缶がやっとの状態が4~5日続いた。(乳房 女性40代)
- 通常の仕事を持つての治療だったが、体は疲れているのに気が立って、朝方になっても眠れない。ほとんど2~3時間の睡眠だった。(乳房 女性40代)
- とにかく食欲がなく、食べるのが苦痛だった。一日一錠薬で生き延びることができたらどんなに楽かと思いました。そして体の倦怠感もひどく、起きてても寝ても辛かったです。(胃 女性40代)
- 食欲が出ないし、食べても気持ち悪くて起きていられない。夜中もトイレに行かないと行けないので、全く眠れない。(子宮 女性60代)
- 吐き気のせいで食事があまりとれず、それでも食欲自体はあったので空腹感があった。また、味覚にとっても敏感になり食べられない・飲めないものが多かった。(乳房 女性40代)
- 匂いに敏感になりちょっとした匂いでも吐き気をもよおす。(咽頭・喉頭 男性40代)
- 食事がまともにとれないのはまだいいとして、倦怠感がひどく、1時間のうち10分起きていると残りの50分は横になっていないとしのげなかった。(乳房 女性50代)
- 吐き気がひどく、横になると吐くので、ずっと寄りかかった状態で寝なければならなかった。(乳房 女性50代)
- 口の中の違和感が常にあり、食べ物の味がわからない。精神的には脱毛症状が一番つらかった。(乳房 女性40代)
- 味覚障害で何を食べても美味しくなく、いろんな物の臭いが気持ち悪く吐き気がする。(乳房 女性40代)
- 吐き気自体がとんでも疲れる。しかも便秘がひどく、汗がびっしょり。トイレからなかなか出られなかった。(骨 女性50代)
- 抗がん剤治療した夕方から、吐き気が翌日まで続き食事は取れない。倦怠感が2,3日続いて仕事ができるのは4日後ぐらいから。(乳房 女性60代)



【Q7】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ) 一番辛い日常生活への影響について、その具体的な内容を、副作用の種類とともに詳細にお教えてください。

■倦怠感があり一日中だらだら過ごす。動かないため、肥満傾向になった。熱発が2週間ぐらい続いたときはとてもしんどかった。(乳房 女性50代)

常に胃がむかむかして、飲食物のにおいに敏感になり、大好きなコーヒーも飲めず、水しか飲めなかった。食べても気分が悪く、吐いてしまう。顔色が死人のようになり、黒く染みが浮き出て、鏡を見てぞっとした。(乳房 女性40代)

■食欲不振に加えて下痢なので、体重が減ったままなかなか増加しなかった。飲食物を口にしただけですぐ下痢したので、外出するのに多に困った。普段の買い物ですら、常にトイレの場所を気にしつつ、時間をかけないようにしていた。(胃 女性30代)

■足のしびれ、むくみがひどく長時間立ってられない。近所に買い物に行っても帰れるか心配。手のしびれで、物をよく落としたり、調理のときは、包丁をうまく使えない。(乳房 女性60代)

日中、夜間関係なく吐き気があり、食欲もなくなり、スープ春雨しか食べられなかったり飲み物も1種類のスポーツドリンクしか飲めなくなったりした。1日中横になって過ごすことが多くTVを見てもめまいがする。何も聞きたくない、何も見たくないという感じになって抗がん剤を受けた後2週間はうつ状態になった。(乳房 女性30代)

■吐き気とともに今考えると味覚障害が一番辛かったです。どんなものを食べても味を感じない症状は少しずつ戻ってきたものの1年以上続きました。やはり食べる楽しみが実感できないのは生きる力も減少します、私は食いしん坊のため味覚障害でもいろいろ食べてました 味覚感じられなくても・しかし病院の食事は見ただけで吐き気していました。病院内のホテルのレストランなどにもよく行きました。(リンパ腫 女性60代)

■吐き気がひどく、抗がん剤の薬の色「赤色」を見ただけで吐き気がしていた。(乳房 女性60代)

■抗がん剤投与当日は吐き気と体調不良で1日寝込みました。翌日も食事はまったく取れず水分のみ補給しながら半病人状態で仕事。二日後から4日後までは体の脱力感は弱まりましたが吐き気はやや弱くなくても持続し食事は好きなもののみ量を加減しながら無理に取る状態。五日後ようやくほぼ平常に戻りました。吐き気は時間に関係なく一日中持続してました。(肺 男性40代)

■抗がん剤投与後一時間も経たないうちから嘔吐が生じて吐き気どめの薬を飲むと副作用がでるし、一週間は寝ても起きて吐き続けました。めまいやしびれがひどく足に力が入りづらく外出時は車椅子を利用しました。拷問を受けているようにさえ思えました。(乳房 女性50代)

■免疫力が落ちるので発熱してなかなか下がらない。味覚が変わるのに驚きました。柔らかい白米がざらざらした感じになる。食欲があるのに味覚がおかしいので食べる種類に限られるので常に空腹状態でした。その影響で「体重がかなり落ちたのできつかったです。食事が摂れれば、元気に過ごせたとと思います。(乳房 女性50代)

■抗がん剤の点滴は冬の時期に始まったのに、治療中は冷奴とりんごしか食べられなかった。(乳房 女性60代)

■吐き気がひどくて食事が取れず、このまま体力が戻らないのではないかと不安になったり、この苦しみがいつまで続くのかと気持ちが滅入っていく。(白血病 男性40代)

■匂いに敏感になり、シャンプーや食器洗いが辛かった。食事のことを考えると気持ちが悪くなり、家族の食事の用意が苦痛だった。寝ている以外ない日が2~3日あった。(乳房 女性40代)

■立つ事すら辛く、ベットのわきに置いてあるポータブルトイレを使用するのも辛かった。(白血病 女性40代)

■気分が悪い状態がずっと続き、洗顔や歯磨きをする為立っているのも辛い状況が続いた。食事の味が分らないので食欲も無く、仕方なく少量の食事を回数多くして食べた。(乳房 女性50代)

■体を横にしても起きていても身の置き所の無い倦怠感。(卵巣・卵管 女性50代)

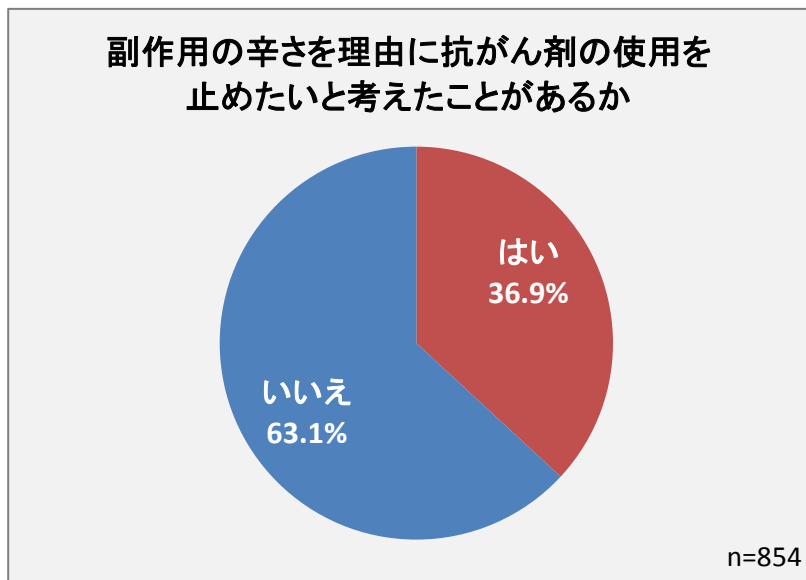
■朝晩の吐き気がひどく、1日に1食しかちゃんとした食事がとれない。(軟部組織系 男性60代)

【Q8】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ)副作用の辛さを理由に、抗がん剤の使用を止めたいと考えたことはありますか。

全体の約3人に1人が抗がん剤の使用を止めたいと考えたことが「ある」と回答。5大がんでは、大腸・直腸で「ある」との回答が過半数になったほか、胃、肺ではそれぞれ「はい」が全体平均を上回っている。年代・性別では「60代男性」「30代女性」において「はい」と回答した割合が最も高かった。

n=854

	n	%
はい	315	36.9%
いいえ	539	63.1%
総計	854	100.0%



n=470

五大がん	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
はい	81	68	32	17	2	200
いいえ	147	52	39	23	9	270
総計	228	120	71	40	11	470

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
はい	35.5%	56.7%	45.1%	42.5%	18.2%	42.6%
いいえ	64.5%	43.3%	54.9%	57.5%	81.8%	57.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



【Q8】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ) 副作用の辛さを理由に、抗がん剤の使用を止めたいと考えたことはありますか。

n=850

性別・年代別	男性								女性								総計
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	n	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	n	
はい	0	9	27	50	53	20	2	161	1	13	51	70	15	3	1	154	315
いいえ	2	15	53	91	65	57	1	284	0	18	83	102	44	7	1	255	539
総計	2	24	80	141	118	77	3	445	1	31	134	172	59	10	2	409	854

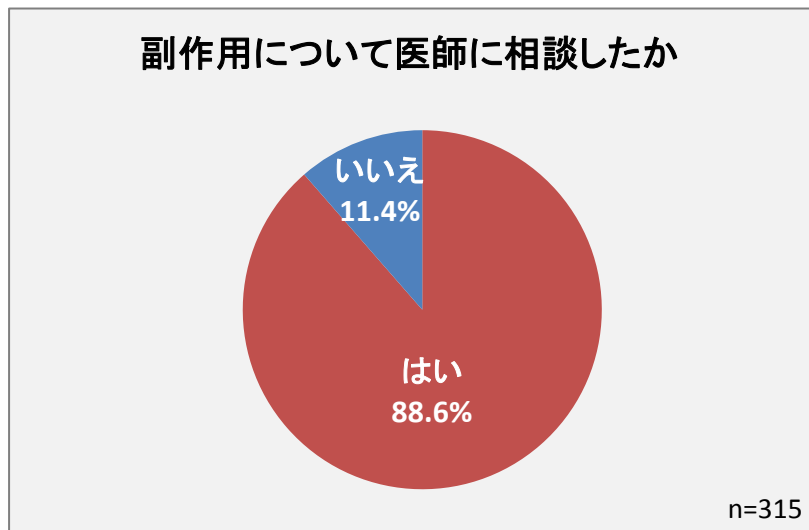
	男性								女性								総計
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	n	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	n	
はい	0.0%	37.5%	33.8%	35.5%	44.9%	26.0%	66.7%	36.2%	100.0%	41.9%	38.1%	40.7%	25.4%	30.0%	50.0%	37.7%	36.9%
いいえ	100.0%	62.5%	66.3%	64.5%	55.1%	74.0%	33.3%	63.8%	0.0%	58.1%	61.9%	59.3%	74.6%	70.0%	50.0%	62.3%	63.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【Q9】(Q8で「抗がん剤の使用を止めたいと考えたことがある」と回答した人のみ)  
副作用の辛さについて、医師に相談しましたか。

88.6%が副作用の辛さについて医師に相談したことが「ある」と回答。最も辛い症状別では「倦怠感・疲れ」の95.0%、「食欲不振」の94.7%が医師に相談している。

n=315

	n	%
はい	279	88.6%
いいえ	36	11.4%
総計	315	100.0%



n=315

もっとも辛い症状	吐気・嘔吐	倦怠感・疲れ	手足のしびれ	食欲不振	口内炎	痛み	無気力	不眠	めまい	頭痛	息切れ	その他	総計
はい	100	57	23	18	6	8	4	0	3	2	1	57	279
いいえ	18	3	3	1	1		3	1	0	0	0	6	36
総計	118	60	26	19	7	8	7	1	3	2	1	63	315

	吐気・嘔吐	倦怠感・疲れ	手足のしびれ	食欲不振	口内炎	痛み	無気力	不眠	めまい	頭痛	息切れ	その他	総計
はい	84.7%	95.0%	88.5%	94.7%	85.7%	100.0%	57.1%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	90.5%	88.6%
いいえ	15.3%	5.0%	11.5%	5.3%	14.3%	0.0%	42.9%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	11.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

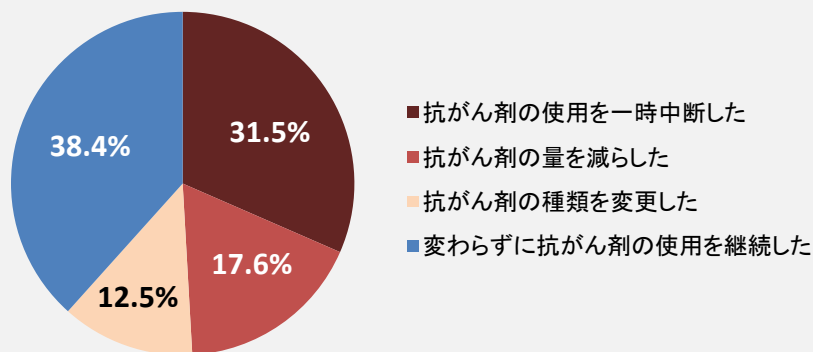
**【Q10】(Q9で「医師に相談した」と回答した人のみ)**  
**副作用の辛さについて、医師に相談した結果、どうなりましたか。**

医師への相談の結果、31.5%が「抗がん剤の使用を一時中断」しているほか、30.1%が減量もしくは抗がん剤の種類を変更している。また、38.4%がそのまま抗がん剤の使用を継続している。

n=279

	n	%
抗がん剤の使用を一時中断した	88	31.5%
抗がん剤の量を減らした	49	17.6%
抗がん剤の種類を変更した	35	12.5%
変わらずに抗がん剤の使用を継続した	107	38.4%
総計	279	100.0%

### 相談した結果どうなったか



n=279

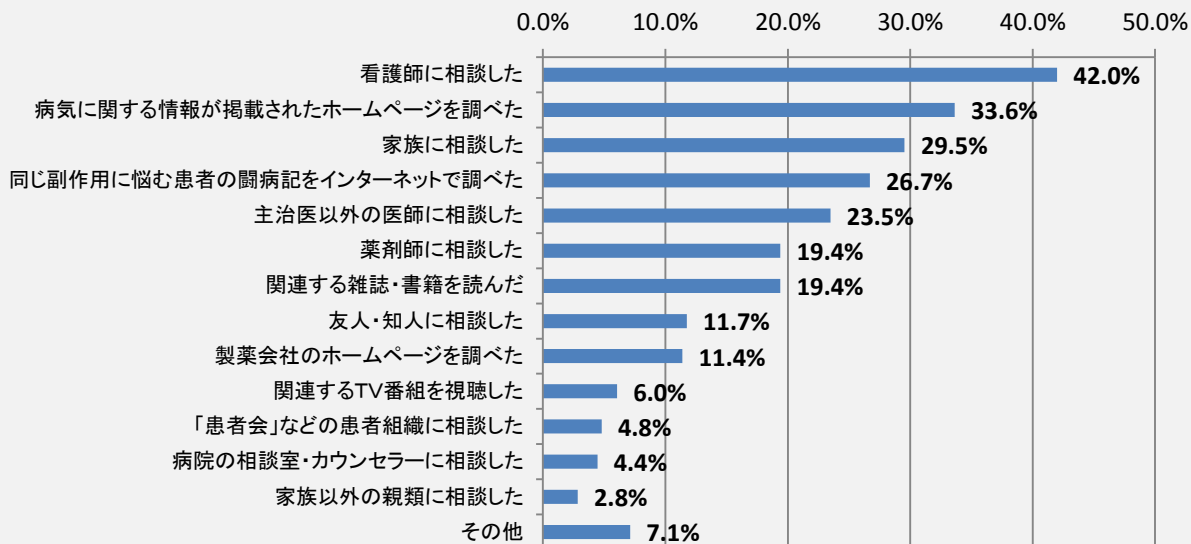
【Q11】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ)副作用の軽減のために、「主治医に相談する」以外であなたが行ったことをすべてお教えてください。(複数回答可)

「主治医以外への相談」をしたことが「ある」患者は全体の65.8%となった。そのうち、「主治医への相談」以外で多かったのが「看護師に相談」で42.0%、次いで「病気に関する情報が掲載されたホームページの閲覧」「家族に相談」「同じ病気に悩む患者の闘病記の閲覧」となった。一方、「製薬メーカーのホームページの閲覧」や「患者会などの患者組織への相談」は低い割合にとどまっている。5大がんでは乳房の「同じ病気に悩む患者の闘病記の閲覧」が全体平均と比較して高い割合となっている。

n=854

	n	%
看護師に相談した	236	42.0%
病気に関する情報が掲載されたホームページを調べた	189	33.6%
家族に相談した	166	29.5%
同じ副作用に悩む患者の闘病記をインターネットで調べた	150	26.7%
主治医以外の医師に相談した	132	23.5%
薬剤師に相談した	109	19.4%
関連する雑誌・書籍を読んだ	109	19.4%
友人・知人に相談した	66	11.7%
製薬会社のホームページを調べた	64	11.4%
関連するTV番組を視聴した	34	6.0%
「患者会」などの患者組織に相談した	27	4.8%
病院の相談室・カウンセラーに相談した	25	4.4%
家族以外の親類に相談した	16	2.8%
その他	40	7.1%
総数	562	242.5%
相談していない(排他)	292	34.2%
総数	854	

### 副作用の軽減のため「主治医に相談する」以外で行ったこと(複数回答)



n=854

【Q11】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ) 副作用の軽減のために、「主治医に相談する」以外であなたが行ったことをすべてお教えてください。  
(複数回答可)

n=470

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
看護師に相談した	70	30	10	10	1	121
病気に関する情報が掲載されたホームページを調べた	68	28	15	6	2	119
家族に相談した	59	25	17	8	3	112
同じ副作用に悩む患者の闘病記をインターネットで調べた	60	22	14	2	0	98
主治医以外の医師に相談した	34	19	12	4	2	71
薬剤師に相談した	28	17	6	4	1	56
関連する雑誌・書籍を読んだ	36	13	12	3	1	65
友人・知人に相談した	33	13	2	2	1	51
製薬会社のホームページを調べた	18	16	8	4	0	46
関連するTV番組を視聴した	14	3	4	2	0	23
「患者会」などの患者組織に相談した	16	1	1	1	0	19
病院の相談室・カウンセラーに相談した	6	3	1	1	1	12
家族以外の親類に相談した	7	2	0	2	0	11
その他	10	7	4	3	2	26
総数	165	87	45	22	7	326
この中にあてはまるものは無い・相談していない(排他)	63	33	26	18	4	144
総数	228	120	71	40	11	470

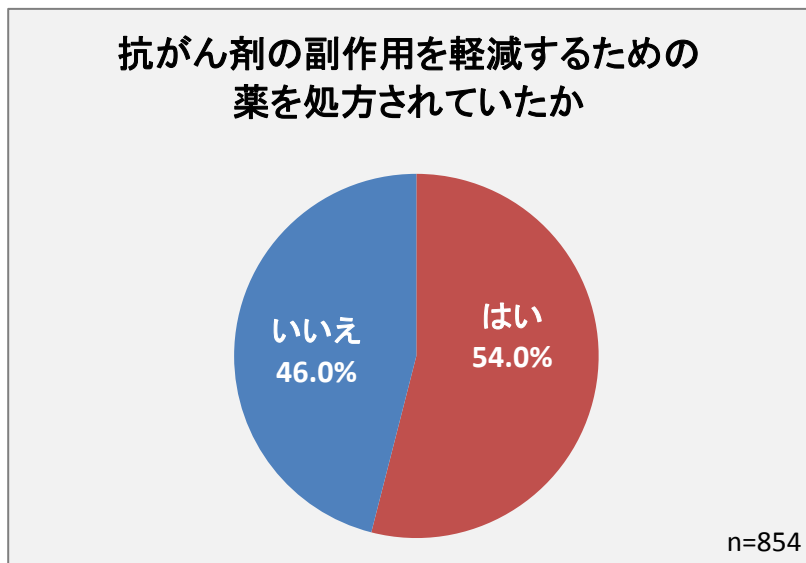
	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
看護師に相談した	42.4%	34.5%	22.2%	45.5%	14.3%	37.1%
病気に関する情報が掲載されたホームページを調べた	41.2%	32.2%	33.3%	27.3%	28.6%	36.5%
家族に相談した	35.8%	28.7%	37.8%	36.4%	42.9%	34.4%
同じ副作用に悩む患者の闘病記をインターネットで調べた	36.4%	25.3%	31.1%	9.1%	0.0%	30.1%
主治医以外の医師に相談した	20.6%	21.8%	26.7%	18.2%	28.6%	21.8%
薬剤師に相談した	17.0%	19.5%	13.3%	18.2%	14.3%	17.2%
関連する雑誌・書籍を読んだ	21.8%	14.9%	26.7%	13.6%	14.3%	19.9%
友人・知人に相談した	20.0%	14.9%	4.4%	9.1%	14.3%	15.6%
製薬会社のホームページを調べた	10.9%	18.4%	17.8%	18.2%	0.0%	14.1%
関連するTV番組を視聴した	8.5%	3.4%	8.9%	9.1%	0.0%	7.1%
「患者会」などの患者組織に相談した	9.7%	1.1%	2.2%	4.5%	0.0%	5.8%
病院の相談室・カウンセラーに相談した	3.6%	3.4%	2.2%	4.5%	14.3%	3.7%
家族以外の親類に相談した	4.2%	2.3%	0.0%	9.1%	0.0%	3.4%
その他	6.1%	8.0%	8.9%	13.6%	28.6%	8.0%
総数	278.2%	228.7%	235.6%	236.4%	200.0%	254.6%
この中にあてはまるものは無い・相談していない(排他)	27.6%	27.5%	36.6%	45.0%	36.4%	30.6%
総数						

【Q12】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ)  
「抗がん剤の副作用を軽減するため」の薬を、処方されていたか。

54.0%が「副作用軽減のために薬を処方された」と回答。5大がんでは乳房が「はい」と回答したのが60.1%と最も多かった。最も辛い症状別では、「手足のしびれ」「痛み」「吐気・嘔吐」といった症状で多く、逆に「倦怠感・疲れ」や「食欲不振」では、辛いと感じる患者が多いながらも、処方に至っている例は半数に満たないことが分かった。

n=854

	n	%
はい	461	54.0%
いいえ	393	46.0%
総計	854	100.0%



n=470

五大がん	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
はい	137	55	26	19	4	241
いいえ	91	65	45	21	7	229
総計	228	120	71	40	11	470

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
はい	60.1%	45.8%	36.6%	47.5%	36.4%	51.3%
いいえ	39.9%	54.2%	63.4%	52.5%	63.6%	48.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【Q12】(Q3で「抗がん剤治療を受けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ)  
「抗がん剤の副作用を軽減するため」の薬を、処方されていましたか。

n=854

もっとも辛い症状	吐気・嘔吐	倦怠感・疲れ	手足のしびれ	食欲不振	口内炎	痛み	無気力	不眠	めまい	頭痛	息切れ	その他	総計
はい	163	88	45	32	14	18	6	8	4	5	3	75	461
いいえ	106	95	20	33	13	9	13	8	6	5	2	83	393
総計	269	183	65	65	27	27	19	16	10	10	5	158	854

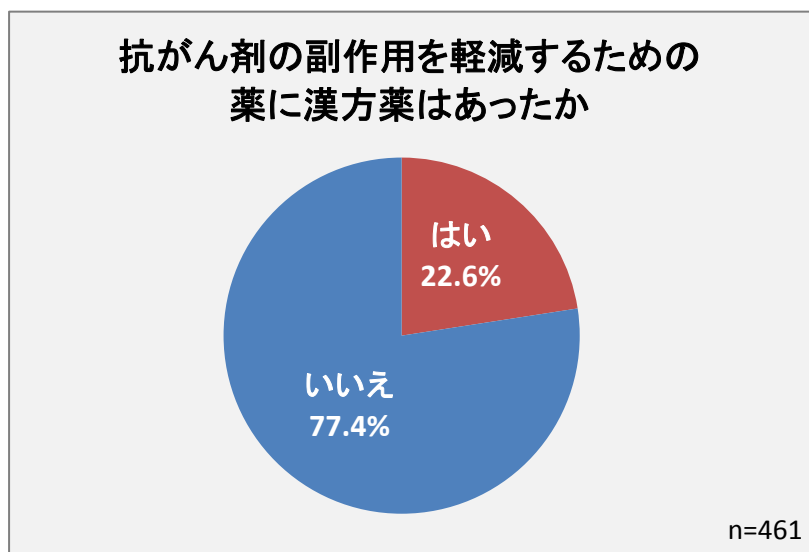
	吐気・嘔吐	倦怠感・疲れ	手足のしびれ	食欲不振	口内炎	痛み	無気力	不眠	めまい	頭痛	息切れ	その他	総計
はい	60.6%	48.1%	69.2%	49.2%	51.9%	66.7%	31.6%	50.0%	40.0%	50.0%	60.0%	47.5%	54.0%
いいえ	39.4%	51.9%	30.8%	50.8%	48.1%	33.3%	68.4%	50.0%	60.0%	50.0%	40.0%	52.5%	46.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【Q13】(Q11で『抗がん剤の副作用を軽減するための薬』を処方されたことがある」と回答した人のみ)  
「抗がん剤の副作用を軽減するため」の薬に、漢方薬はありましたか。

22.6%が副作用の軽減を目的に「漢方薬を処方された」と回答している。5大がんでは乳房で処方された割合が最も高い

n=461

	n	%
はい	104	22.6%
いいえ	357	77.4%
総計	461	100.0%



五大がん	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
はい	115	31	19	14	2	181
いいえ	22	24	7	5	2	60
総計	137	55	26	19	4	241

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
はい	83.9%	56.4%	73.1%	73.7%	50.0%	75.1%
いいえ	16.1%	43.6%	26.9%	26.3%	50.0%	24.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



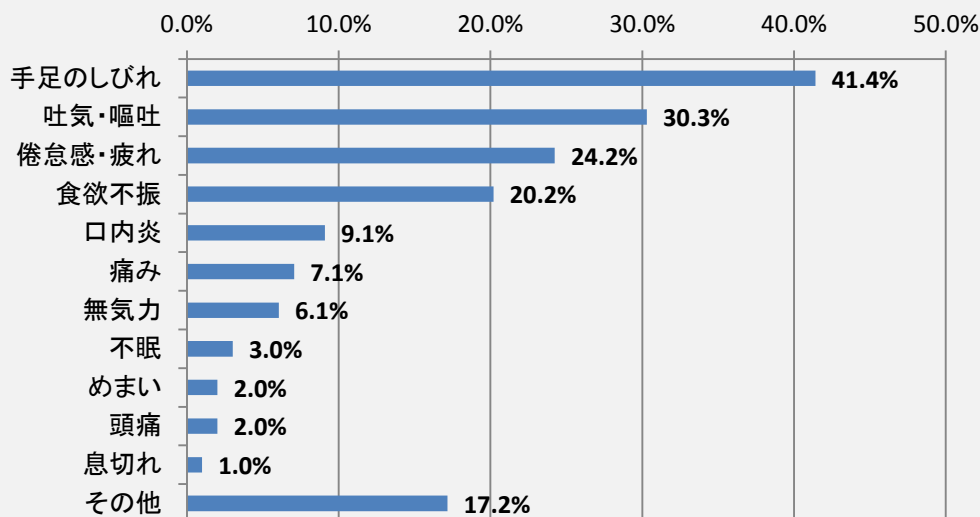
【Q14】(Q12で『抗がん剤の副作用を軽減するため』の薬に、漢方薬があった)と回答した人のみ  
その漢方薬はどの副作用を軽減させるために処方されましたか。(複数回答可)

漢方薬を処方された副作用で最も多かったのが「手足のしびれ」で41.4%、ついで「吐気・嘔吐」で30.3%となった。平均で1.6種類の症状に対し、漢方薬が処方されており、単一症状に対して作用する西洋薬とは異なり、複数の症状に作用する漢方薬のいわゆる「守備範囲の広さ」が明らかになった結果となった。

n=104

	n	%
手足のしびれ	41	41.4%
吐気・嘔吐	30	30.3%
倦怠感・疲れ	24	24.2%
食欲不振	20	20.2%
口内炎	9	9.1%
痛み	7	7.1%
無気力	6	6.1%
不眠	3	3.0%
めまい	2	2.0%
頭痛	2	2.0%
息切れ	1	1.0%
その他	17	17.2%
総数	99	163.6%
覚えていない・分からない(排他)	5	4.8%
総数	104	

### どの副作用を軽減させるために 漢方薬が処方されたか(複数回答)



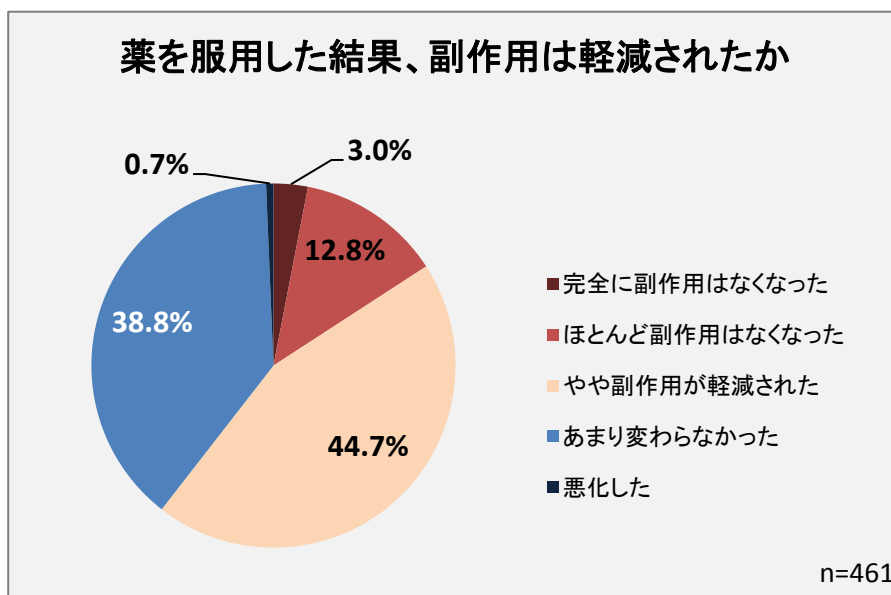
n=104

【Q15】(Q11で『抗がん剤の副作用を軽減するための薬』を処方されたことがある』と回答した人のみ) お薬を服用した結果、副作用は軽減されましたか。

61.2%が薬を服用した結果、副作用が軽減されたと回答。漢方薬を処方された患者との比較ではほぼ同様の回答となっており、抗がん剤の副作用軽減における漢方薬の効果実感は、西洋薬とほぼ同等のものであることが分かった。

n=461

	n	%
完全に副作用はなくなった	14	3.0%
ほとんど副作用はなくなった	59	12.8%
やや副作用が軽減された	206	44.7%
あまり変わらなかった	179	38.8%
悪化した	3	0.7%
総計	461	100.0%



漢方を処方された	n	%
完全に副作用はなくなった	8	7.7%
ほとんど副作用はなくなった	7	6.7%
やや副作用が軽減された	42	40.4%
あまり変わらなかった	47	45.2%
悪化した	0	0.0%
総計	104	100.0%

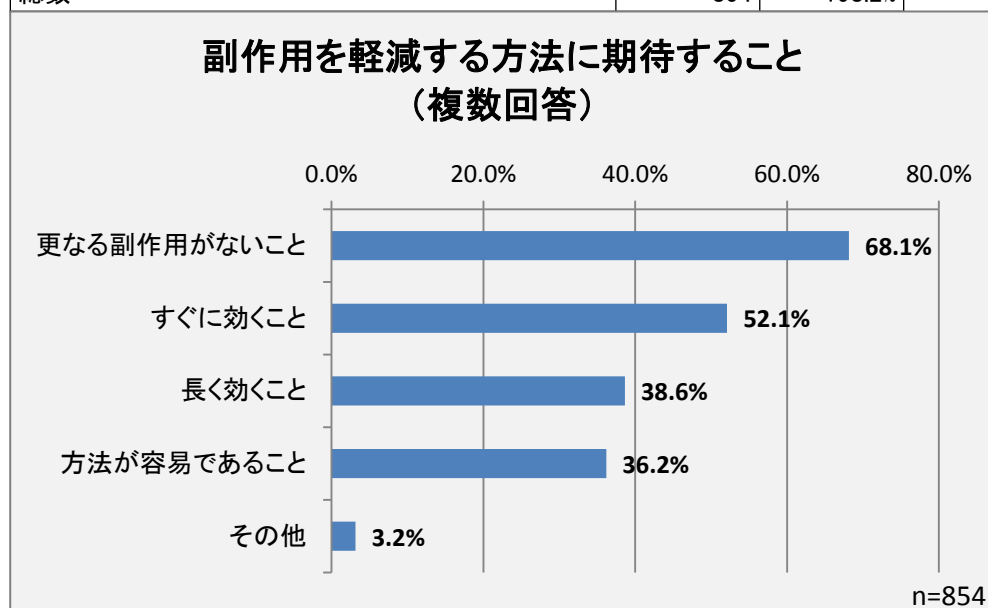
	漢方薬処方された	漢方薬されていない	n	漢方薬処方された	漢方薬されていない	%
完全に副作用はなくなった	8	6	14	7.7%	1.7%	3.0%
ほとんど副作用はなくなった	7	52	59	6.7%	14.6%	12.8%
やや副作用が軽減された	42	164	206	40.4%	45.9%	44.7%
あまり変わらなかった	47	132	179	45.2%	37.0%	38.8%
悪化した	0	3	3	0.0%	0.8%	0.7%
総計	104	357	461	100.0%	100.0%	100.0%

【Q16】(Q3で「抗がん剤治療を受副作用を軽減する方法(治療法)けたことがある」と回答、かつQ4で「副作用はなかった」以外を選択した人のみ)  
に期待することは何ですか。(複数回答可)

抗がん剤に期待することは「更なる副作用が無いこと」「すぐに効くこと」がそれぞれ過半数となった。

n=854

	n	%
更なる副作用がないこと	582	68.1%
すぐに効くこと	445	52.1%
長く効くこと	330	38.6%
方法が容易であること	309	36.2%
その他	27	3.2%
総数	854	198.2%



n=470

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
更なる副作用がないこと	169	82	48	21	7	327
すぐに効くこと	129	63	33	18	3	246
長く効くこと	91	49	30	10	6	186
方法が容易であること	86	52	28	10	4	180
その他	4	12	1	1	0	18
総数	228	120	71	40	11	470

	乳房	大腸・直腸	胃	肺	肝臓	n
更なる副作用がないこと	74.1%	68.3%	67.6%	52.5%	63.6%	69.6%
すぐに効くこと	56.6%	52.5%	46.5%	45.0%	27.3%	52.3%
長く効くこと	39.9%	40.8%	42.3%	25.0%	54.5%	39.6%
方法が容易であること	37.7%	43.3%	39.4%	25.0%	36.4%	38.3%
その他	1.8%	10.0%	1.4%	2.5%	0.0%	3.8%
総数	210.1%	215.0%	197.2%	150.0%	181.8%	203.6%

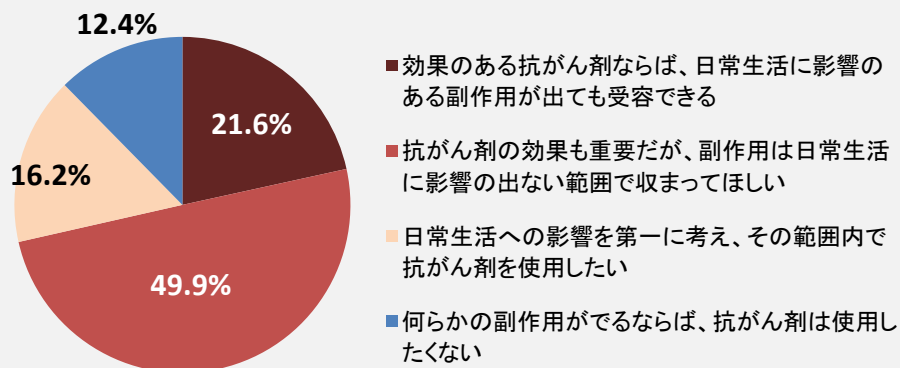
【Q17】抗がん剤と副作用の関係について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。

効果とともに、副作用の軽減(日常生活に影響の出ない範囲)を求める患者が約半数となった。「抗がん剤の使用経験の有無」ならびに「がんの種類」で絞り込むと、使用経験のある患者はない患者よりも「効果」の確実性を求める傾向にある。

n=2249

	n	%
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	485	21.6%
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	1122	49.9%
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	364	16.2%
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	278	12.4%
総計	2249	100.0%

### 抗がん剤と副作用の関係について



n=2249

【Q17】抗がん剤と副作用の関係について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。

n=2249

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	乳房		大腸・直腸		胃		前立腺		子宮		甲状腺		肺	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	80	28	29	24	30	24	7	16	9	17	1	9	18	7
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	138	98	81	64	38	87	20	94	20	73	2	49	17	23
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	21	34	21	44	9	33	11	44	3	28	2	20	5	7
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	7	21	12	38	6	33	4	31	2	16		21	3	9
総計	246	181	143	170	83	177	42	185	34	134	5	99	43	46

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	リンパ腫		膀胱		腎臓・副腎		食道		咽頭・喉頭		肝臓	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	43	1	8	3	9	7	9	4	9	2	5	4
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	30	4	14	24	12	33	15	8	20	7	7	10
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	1	2	10	7	2	5	1	5	2	1	0	6
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	4	4	6	10	1	6	2	2	1	2	0	7
総計	78	11	38	44	24	51	27	19	32	12	12	27

【Q17】抗がん剤と副作用の関係について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	白血病		皮膚		精巣		卵巣・卵管		口腔・舌		脳		すい臓	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	11	2	5	2	5	0	7	1	6	1	8	1	1	0
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	23	1	3	12	8	8	15	0	6	6	3	5	6	2
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	1	0	0	2	1	4	2	1	3	4	2	2	1	1
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	0	1	0	5	0	2	2	0	1	0	0	2	1	3
総計	35	4	8	21	14	14	26	2	16	11	13	10	9	6

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	軟部組織系(筋肉・脂肪)		骨		骨髄腫		胆道・胆のう		十二指腸・小腸		その他	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	4	2	4	1	3	0	1	0	1	1	8	7
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	1	3	0	3	3	0	3	2	1	0	9	11
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	10
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9
総計	5	8	5	5	7	1	4	4	2	1	18	37

【Q17】抗がん剤と副作用の関係について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。

n=2249

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	乳房		大腸・直腸		胃		前立腺		子宮		甲状腺		肺	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	32.5%	15.5%	20.3%	14.1%	36.1%	13.6%	16.7%	8.6%	26.5%	12.7%	20.0%	9.1%	41.9%	15.2%
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	56.1%	54.1%	56.6%	37.6%	45.8%	49.2%	47.6%	50.8%	58.8%	54.5%	40.0%	49.5%	39.5%	50.0%
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	8.5%	18.8%	14.7%	25.9%	10.8%	18.6%	26.2%	23.8%	8.8%	20.9%	40.0%	20.2%	11.6%	15.2%
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	2.8%	11.6%	8.4%	22.4%	7.2%	18.6%	9.5%	16.8%	5.9%	11.9%	0.0%	21.2%	7.0%	19.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	リンパ腫		膀胱		腎臓・副腎		食道		咽頭・喉頭		肝臓	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	55.1%	9.1%	21.1%	6.8%	37.5%	13.7%	33.3%	21.1%	28.1%	16.7%	41.7%	14.8%
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	38.5%	36.4%	36.8%	54.5%	50.0%	64.7%	55.6%	42.1%	62.5%	58.3%	58.3%	37.0%
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	1.3%	18.2%	26.3%	15.9%	8.3%	9.8%	3.7%	26.3%	6.3%	8.3%	0.0%	22.2%
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	5.1%	36.4%	15.8%	22.7%	4.2%	11.8%	7.4%	10.5%	3.1%	16.7%	0.0%	25.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【Q17】抗がん剤と副作用の関係について、あなたの考えに最も近いものを教えてください。

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	白血病		皮膚		精巣		卵巣・卵管		口腔・舌		脳		すい臓		軟部組織系 (筋肉・脂肪)	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	31.4%	50.0%	62.5%	9.5%	35.7%	0.0%	26.9%	50.0%	37.5%	9.1%	61.5%	10.0%	11.1%	0.0%	80.0%	25.0%
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	65.7%	25.0%	37.5%	57.1%	57.1%	57.1%	57.7%	0.0%	37.5%	54.5%	23.1%	50.0%	66.7%	33.3%	20.0%	37.5%
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	2.9%	0.0%	0.0%	9.5%	7.1%	28.6%	7.7%	50.0%	18.8%	36.4%	15.4%	20.0%	11.1%	16.7%	0.0%	12.5%
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	0.0%	25.0%	0.0%	23.8%	0.0%	14.3%	7.7%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	20.0%	11.1%	50.0%	0.0%	25.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

がんの種類×抗がん剤治療経験の有無	軟部組織系 (筋肉・脂肪)		骨		骨髄腫		胆道・胆のう		十二指腸・小腸		その他	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
効果のある抗がん剤ならば、日常生活に影響のある副作用が出て受容できる	80.0%	25.0%	80.0%	20.0%	42.9%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	100.0%	44.4%	18.9%
抗がん剤の効果も重要だが、副作用は日常生活に影響の出ない範囲で収まってほしい	20.0%	37.5%	0.0%	60.0%	42.9%	0.0%	75.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	29.7%
日常生活への影響を第一に考え、その範囲内で抗がん剤を使用したい	0.0%	12.5%	20.0%	20.0%	14.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	27.0%
何らかの副作用がでるならば、抗がん剤は使用したくない	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	24.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



---

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴  
TEL : 03-5433-3161 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-16-5 さいとうビル4F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---